

ぽれぽれしター ぽれぽれしター



特集 みなさんの笑顔のために！！

リハビリテーション部：塚脇 章博（PT）

こんにちは。リハビリテーション部です。今春新しく3名が入職し、理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）の3職種がそろいました！

5名（1名育児休暇中）のスタッフでがんのリハビリテーションを中心に頑張っています。

リハビリテーションと聞くと、「骨折や脳卒中になったときの歩く練習」とか「痛い、厳しい、つらい・・・」と想像する人が多いのではないのでしょうか。そのような中でがんのリハビリテーションが注目されています。近年検査方法や治療技術が進歩し、平成19年に「がん対策基本法」が施行され、「がんと共存」する時代となってきています。その「がんと共存する時間をいかに充実したものにするか」ということで、がんのリハビリテーションが注目されているのです。厚生労働省は今年4月から医療保険でがんのリハビリテーションができるようにしましたが、当院では3年前の開院当時からがんの予防・回復・維持・緩和の各時期に合わせたリハビリをしています。

リハビリの種類を紹介します。がんの理学療法（PT）は体力を向上させ、身体能力を高めて生活の質を向上させることが目標です。そのために関節や筋肉、バランス能力、感覚などに対して訓練、練習をしています。

作業療法（OT）は作業を通じて身体や手の動きを良くして、身のまわりの動作ができるようになることを目標とします。女性で胸部術後の方の下着や、抗がん剤で脱毛される方のウィッグやつけ毛に関する相談や商品の紹介もしています。

言語聴覚療法（ST）は言語障害などに対し、コミュニケーション方法を検討し訓練、練習をします。また嚥下（飲み込み）の障害に対してはその程度を検査、評価して患者さんに合わせた食事方法を考え生活の質の向上のため助言や援助をしています。

がんのリハビリテーションは新しい分野なので、これからも知識や技術を習得し、患者さんの笑顔が沢山見られるようなリハビリを提供していこうと、スタッフ一同励んでいます。



医療コラム

最近注目される漢方薬について 編集員：岩田 健太郎（薬剤師）

漢方薬は生薬の乾燥成分を飲み易いようにパックしたもので、自分たちで生薬を煎じる必要がありません。漢方薬は必ずしも漢方専門医が処方する必要がないことから、いわゆる西洋薬（*漢方薬以外の薬剤）と一緒に処方されることがしばしばあります。

現在、漢方薬には100を超える種類があり、多くの症状に対する治療や予防に使われています。漢方薬と西洋薬を併用するやり方は、わが国独特のもので、今後の治療領域で多くの可能性を秘めているといえます。

がん領域でも手術や放射線治療、化学療法などの治療を補足する目的で使われます。例えば大腸癌手術後の腸閉塞の予防に大建中湯、抗がん剤の副作用の下痢に半夏瀉心湯、がんそのものやがん治療からくる体のだるさに補中益気湯などを使います。

西洋薬と比べて効果のメカニズムがわからないことが多い漢方薬ですが、ひとつの薬剤がいろんな症状に効果があること、また副作用が比較的小さくおだやかなので近ごろは先進医療と並んで注目度が高まっています。

ぽれぽれ(Pole pole)
スワヒリ語で
「ゆっくり・・・」
という意味です

理念

「人よりそう ひらかれた病院」

病院基本方針

安心・安全ながん医療を提供します
医療連携を進め、地域医療に貢献します
豊かな人間性を持った医療人の育成に努めます

診療案内

内科 外科 脳神経外科
整形外科 耳鼻咽喉科（休診中）
婦人科 泌尿器科 放射線科
消化器科 緩和ケア科
乳腺外来 腫瘍外来

【診療受付時間】

午前8:30～正午

【診療時間】

平日 午前9:00～午後5:00

土曜 午前9:00～正午

【外来の休診日】

日曜・祝日・年末年始

【お見舞い時間】

正午～午後8:00

注目

- ・院内勉強会：毎週火曜日
- ・カンファレンス：毎週月曜日
- ・専門分野の勉強会：随時案内
- ・各種委員会：随時開催

「こんにちは！」



健診センター専任看護師

橋本 千佳子

健診センター専任看護師として7月1日に入職し、ドック健診全般を担当しております。

受診者の方に満足と安心感をもって健診を受けていただけるよう、おもてなしの心でみなさんをお迎えしています。

また次回も彩都友誼会病院でドック健診を受けてくださるよう健診センターの看板ナースとして頑張ります！

スタッフ紹介

～ 臨床検査部 ～

検査部部長：深澤 雅信

当院の検査室は地下1階で食堂のとなりであり、スタッフ5名で生理検査と検体検査をしています。生理検査は超音波検査をはじめ、心電図、呼吸機能や聴力検査などです。検体検査は血液や尿検査をはじめ凝固機能や感染症検査などです。どんな検査でも常に迅速で正確な報告に努めています。また、昨今話題になっている院内感染問題では検査室のスタッフがいち早く感染情報を感染対策チーム（ICT：infection control team）に提供できる体制をとっています。また栄養サポートチーム（NST：nutrition support team）にも参加して、患者さんの栄養管理の面にも貢献できるように日々努めています。当院検査室は検査を担当するだけでなく、治療面で画像診断部と共同して癌の温熱療法（ハイパーサーミア）に参画しています。これは彩都友誼会病院の特徴のひとつだと思っています。最後に、検査のことならどんなことでも、何時でも気軽にお声をかけて下さい。



今里さん 早川さん
尾上さん 深澤技師長 藤森さん



彩都の街から

阪急不動産



彩都において阪急は開発当初から中心的な役割を担い、豊かな自然環境やコミュニティなど、心地よさをプラスした新しいまちづくりを行っています。

ここ彩都ではお住まいの皆さんの暮らしをサポートする会員制コミュニティクラブがあります。名前を「彩都スタイルクラブ」と言い、彩都での暮らしを楽しんでいただくためのいろいろな活動をおこなっています。料理教室や体操教室、音楽会に英会話、フリーマーケットなど年間を通じて生活を彩るいろいろなイベントを開催しています。



田植えの様子

また、彩都は北摂の緑豊かな環境の中に位置していますので、その立地を生かして住民の方ご自身が農作業を体験していただく「彩都棚田ファーマークラブ」もおこなっています。農業体験を通じて住民同士の交流を深めるコミュニティ活動で、隣接する地元農家の皆さんやボランティアの方から農業指導を受け、お米や野菜をつくります。自分でつくったお米の味は格別のように皆さん「おいしかった」「素敵な体験ができた」とのお声をいただきました。

そのような彩都も人口は7000人を超えました。来年には箕面エリアで初となるマンション「ジオ彩都いぶきの森」や無電柱で美しいまちなみの戸建街区「阪急ガーデンビレッジやまびき」の入居が始まりますので、彩都はますます賑わいを見せていきます。



コラム 「中秋の名月」

編集長：小田 忠文（医師）

中秋の名月は年によって9月だったり10月だったりしますね。今年は9月22日でしたが10月にも美しい満月が見られます。ところで満月は毎月見られるのにどうして秋の満月だけがもてはやされるのでしょうか？ どうやらその理由は月が見える高さ、天気が関係しているようです。

（90度）です。つまり冬の満月は頭上に来るのです。逆に6月の満月の高さは約30度と都会ではビルのかげにかくれてしまうこともあります。しかし春と秋はその中間なので、見上げるのにちょうどいい高さになります。つまり見える高さは春と秋がいいのです。しかし「春がすみ」や「秋晴れ」という言葉があるように空気は秋の方が澄んでいるため、秋のほうが美しい満月が見られます。というわけで「月見には秋が最適だ」ということになっているのです。

毎晩見える月は空の中を右（西）から左（東）に移動していきますが、月の通り道は鉄道の線路のように決まっています。その経路（線路）の中で月は形を変えて三日月や満月になるのです。毎月の満月だけに注目するとその経路の高さは6月に低く12月に高くなっています。12月の満月の位置は6月の太陽の位置と同じで、南に来たときの地平線からの高さはおおよそ80度でほとんど真上

ところで「中秋の名月の日は必ず仏滅だ」ということにお気づきですか？ その理由をご存知の方はかなりの専門家です。



編集後記：各地の観測史上最も暑かった夏が過ぎ、秋が来ました。夏の置き土産でしょうか病院南側の公園にある池の表面すべてが水草で覆われています。枯れた後が心配です。（〇）

発行者：中村仁信（病院長） 〒567-0085 茨木市彩都あさぎ7丁目2番18号
編集長：小田忠文（医局） 072（641）6898 Fax072（641）6097
編集委員：藤野真弓（心理） 岩田健太郎（薬剤） 寺内香澄（放射）



<http://www.saito-yukokai-hp.jp/index.htm>

「ぼれぼれ」はホームページからダウンロードできます！

このニュースレターご希望の方は総合受付・地下受付にお越し下さい

